

科学研究費助成事業（基盤研究（S））公表用資料
〔研究進捗評価用〕

平成 24 年度採択分
平成 27 年 3 月 19 日現在

日本目録学の基盤確立と古典学研究支援ツールの拡充

—天皇家・公家文庫を中心に—

Establishing the Foundation of Japanese Library Catalogue Studies and Expanding the Research Tools for Classical Studies -With a Focus on Royal and Noble Library Holdings

課題番号：24222001

田島 公 (TAJIMA ISAO)

東京大学・史料編纂所・教授



研究の概要：学術創成研究費で収集した天皇家・公家文庫収蔵史料のデジタル画像約 100 万齣にメタデータを付加し、東京大学史料編纂所の閲覧室で家分けの蔵書目録と共に公開し、更に将来の Web 公開に備えるなど日本目録学の基盤を確立する。『日本古代人名辞典』新訂増補版や『禁裏・公家文庫研究』の刊行により、日本古典学の研究支援ツールを拡充し、日本古典学の着実な進展・熟成を目指す。市民向けに古典学の公開講座を行い、古典研究の裾野を拡げる。

研究分野：史学（日本史）

キーワード：日本目録学、日本古典学、禁裏・公家文庫、新訂増補版日本古代人名辞典

1. 研究開始当初の背景

前近代日本における古代・中世以来の伝統的な知識（知識体系）は主に天皇家を中心とした公家社会に育まれた禁裏文庫・公家文庫やそれと深く関わる社寺文庫を中心に手書きの写本という形態で有機的に分類（類聚）され、世代を超えて保管されてきたという特徴があり、そうした知識体系は前近代の禁裏・公家文庫の蔵書目録と家分けに集積したデジタル画像の組合せにより復原が可能である。近年の世界的な古典学研究復興の中で、日本古典学は新出資料が少ない上に活字化された既存のテキストの信頼性が揺らぎ始めており、閉塞感が否めず、創造的な自己革新を遂げにくい状況下にあったが、平成 19～23 年度学術創成研究費「目録学の構築と古典学の再生—天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明—」により、そうした状況は改善される方向に向かいつつある。

2. 研究の目的

本研究は、上記学術創成研究費「目録学の構築と古典学の再生」による研究成果を継承し、日本古典学の基礎学問領域として創成した日本目録学の研究基盤を確立するため、禁裏・公家文庫の所蔵家分け目録の復原や集積した天皇家ゆかりの文庫や陽明文庫所蔵近衛家本など主要公家文庫収蔵史料のデジタル画像を公開し、『日本古代人名辞典』の増訂改訂など古典学研究支援ツールの拡充により、停滞気味の日本古典学を再生する。

3. 研究の方法

- ① 集積した禁裏・公家文庫収蔵史料のデジタル画像約 100 万齣を保全しながら Hi-CAT Plus（東京大学史料編纂所所蔵目録データベース改良版）と TK ビュー（デジタル史料画像検索・閲覧システム）により、メタデータを付加して、家分け目録と共に東京大学史料編纂所閲覧室で公開する。宮内庁書陵部所蔵本は、セキュリティ対策・閲覧ビューアの改良など、Web 公開の準備を行う。
- ② 古典学研究支援ツールとして、大量に見えられた木簡等出土文字資料や新出の正倉院文書等に見える人名を増補した『日本古代人名辞典』新訂増補版等、古典研究の進展のための研究支援ツールを公刊する。
- ③ 禁裏・公家文庫の家分け目録の復原研究（柳原家本や壬生家本等）や同文庫収蔵個別史料の目録学的研究の成果を『禁裏・公家文庫研究』5・6 輯（思文閣）や『東京大学史料編纂所研究成果報告』など通じて公開する。
- ④ 「陽明文庫講座」・「西尾市岩瀬文庫特別連続講座」・「新・古典を読む」（金鶏会館）など市民向け公開講座の開催や講座の内容を盛り込んだ一般向けの書籍の刊行を行う。

4. これまでの成果

- ① 伏見宮家本・九条家本など禁裏・公家文庫収蔵史料のデジタル画像約 62 万件に、メタデータを付加し、家分け史料目録と共に史料編纂所閲覧室で完全公開した。
- ② 世界で初めて世界記憶遺産・国宝『御堂関白記』以下歴代当主の日記を中心とした近衛家所蔵史料の中核をなす「近衛家記録十五函文書」や正倉院所蔵「東南院文書」の高精細

デジタル画像を東京大学史料編纂所閲覧室で完全公開を開始した。

③ 宮内庁書陵部（東京都内）と西尾市岩瀬文庫（愛知県内）とに分蔵されている柳原家旧蔵本のデジタル画像約 21 万弱の画像が「柳原家記録」の画像も含め史料編纂所閲覧室 1 か所で閲覧できるようになった。

④ 謎であった高松宮本の形成過程が解明できたことにより、近世の禁裏文庫の変遷がほぼ説明できるようになった。

⑤ 『禁裏・公家文庫研究』5 輯（思文閣出版）を公刊し、宮内庁書陵部所蔵壬生家本全体の蔵書目録の他、禁裏・公家文庫収蔵史料に関する基礎データや研究成果が収載され、今後の研究の基盤を多数提供出来た。

⑥ 「陽明文庫講座」など市民向け公開講座を当初予定していた 3 会場に、岐阜県関市立図書館も加えた 4 会場で、3 年間でのべ 53 回開催し、約 6200 人の参加者を得た。

5. 今後の計画

① 集積した禁裏・公家文庫収蔵史料のデジタル画像のうち、未公開の京都御所東山御文庫本、宮内庁書陵部図書寮文庫所蔵壬生家本、京都大学総合博物館所蔵勸修寺家記録、同文学研究科所蔵『大日本史編纂記録』、陽明文庫所蔵近衛家本（革文庫 I～III・貴重日記函）、山口県立図書館萩藩明倫館旧蔵今井似閑本等を Hi-CAT Plus（東京大学史料編纂所蔵目録データベース改良版）と TK ビュー（デジタル史料画像検索・閲覧システム）により、東京大学史料編纂所閲覧室で公開し、合計で約 100 万件のデジタル画像公開を達成する。

② 集積した禁裏・公家文庫収蔵史料のデジタル画像の Web 公開の準備のため、Hi-CAT Plus と TK ビューを改良する。

② 『日本古代人名辞典』新訂増補版の原稿を作成し、刊行を目指す。

③ 京都大学総合博物館所蔵壬生家本蔵書目録データの公開や壬生家本の旧蔵目録を翻刻し、既発表の書陵部所蔵壬生家本蔵書目録と比較して、壬生家本の旧蔵形態の復原研究を行い、禁裏・公家文庫収蔵史料や蔵書目録に関する研究成果を『禁裏・公家文庫研究』6 輯（思文閣出版）等に公開する。

④ 「陽明文庫講座」・「西尾市岩瀬文庫特別連続講座」・「新・古典を読む」など市民向け公開講座を継続して開催し講座の内容を盛り込んだ一般向けの書籍を刊行する。

6. これまでの発表論文等（受賞等も含む）

吉岡眞之「柳原家旧蔵書籍群の現状とその目録」（田島公編『禁裏・公家文庫研究』5 輯 思文閣出版、pp.3-69、2015 年）

田島公「古代の官撰史書・儀式書の写本作成」（『同』 pp.73-91 所収）

田島公「『延喜式』諸写本の伝来と書写に関する覚書」（『同』 pp.93-135 所収）

恵美千鶴子「藤原行成筆「陣定文案」の書誌・伝来」（『同』 pp.137-165 所収）

遠藤基郎「後三条・白河の年中行事書」（『同』 pp.167-187 所収）

金子拓「天正四年興福寺別当職相論をめぐる史料」（『同』 pp.197-213 所収）

木下聡「伏見宮本『惟房公記』」（『同』 pp.249-270 所収）

藤原重雄「宮内庁書陵部所蔵九条家本『定能卿記部類』九「仏事」」（『同』 pp.237-248 所収）

稲田奈津子「東京大学史料編纂所蔵『見忌抄』の紹介と翻刻」（『同』 pp.219-235 所収）

尾葉石真理「東山御文庫蔵『桃園天皇御詠草』の紹介と翻刻」（『同』 pp.307-360 所収）

小倉慈司「宮内庁書陵部所蔵壬生家旧蔵本目録（稿）」（『同』 pp.362-463 所収）

田島公「所在不明の真福寺所蔵「旧記目録」三巻」（『愛知県史のしおり』別編 文化財 4 典籍、pp.4-7、2015 年）

田島公「延暦十八年の崑崙人（天竺人）の参国漂着と綿種の伝来」（『西尾市史研究』1 号、pp.8-20、2015 年）

尾上陽介「俊寛自筆書状をめぐる」（東京大学史料編纂所編『日本史の森をゆく』中央公論新社、pp.9-13、2014 年）

藤原重雄「京都御所東山御文庫収蔵「神護寺文書」短報」（『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』64、pp.18-21、2014 年）

小倉慈司「宮内庁書陵部所蔵京都御所旧蔵本の由来」（『国立歴史民俗博物館研究報』186 集、pp.83-207、2014 年）

末柄豊「応仁・文明の乱」（『岩波講座日本歴史』8・中世 3、岩波書店、pp.77-112、2014 年）

田島公「古代学協会所蔵「天平宝字二年太政官関係文書」小考」（吉村武彦編『日本古代国家の王権と社会』塙書房、pp.218-226、2014 年）

田島公「平安貴族と摂関体制の実態」田島公責任編集（『週刊朝日百科 週刊新発見！日本の歴史』15 平安時代 3、pp.10-15、朝日新聞出版 2013 年）

小倉慈司「高松宮家伝来禁裏本の形成過程」（『国立歴史民俗博物館研究報告』178 集、pp.353-404、2013 年）

川尻秋生「神護寺五大堂一切経目録」の性格」（『日本史研究』612 号、pp.28-50、2013 年）

ホームページ等

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/kodai/kinri-kuge-index.html>（禁裏・公家文庫研究の窓）

http://jinmei.nabunken.go.jp/mokkan_name/（木簡人名データベース）